

アセスメント技術を高めるために ～ケースマネジメントのためのアセスメント研修～

※当財団(講座)は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、(公財)日本臨床心理士資格認定協会より「短期型研修会(ワークショップ)」の承認を受けております。＜承認期間:2022年7月2日～2027年7月1日 承認番号:20210392＞

期 日:2023年5月13日(土)、8月5日(土)のどちらかのご希望日

※ご希望日を必ず通信欄にご記入・ご入力ください

受講対象:医療・保健・福祉の領域で、治療・教育・相談・指導等に携わっている専門家の方々、
ならびに大学生・大学院生など本テーマに関心のある方

定 員:40名/各日

(定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください。先着順となります。)

受講料:8,500円(税込み) ※昼食は各自おとりください

主 催:公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021

会 場:明治安田こころの健康財団 講義室 ※詳細地図は受講証に添付いたします

東京都豊島区高田3-19-10

JR山手線、西武新宿線、東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車徒歩約7分

ご企画・講義

大正大学 名誉教授 近藤 直司 先生

まず、医療・保健・福祉領域のアセスメントを、『一つ一つの情報を自分なりに解釈し、それらを組み立て、生じている問題の成り立ち mechanism を構成し(まとめ上げ)、支援課題を抽出すること、あるいは、その人がどんな人で、どんな支援を必要としているのかを明らかにすること』と定義しておきたいと思います。アセスメントの技術を高めるためには、情報の収集と整理(インテイク)ー評価(アセスメント)ー支援計画(プランニング)という3つの作業過程を意識すること、とりわけ「情報」と「評価(アセスメント)」の違いを明確に意識することが決定的に重要です。また、『生物ー心理ー社会モデル』を理解し、使いこなすことによって、包括的でバランスのよいアセスメント技術が身に付くと思います。

本講座では、アセスメントの力量を高めるために取り組むべき課題として、とくに「日常業務におけるケースレポートの方法」を重視し、講義に加えて、自分がケースをレポートする、他の人のレポートを聴くというグループワークによって構成します。また、各機関・職種の役割を明確にできるようなネットワーク型のケース検討会議を成功させる技術についても取り上げます。

守秘性には十分に配慮しますので、ケースをレポートできる方に受講していただきたいと思います。医療、保健、福祉、心理などの専門職で、アセスメント技術に問題意識を感じている方、ケース検討会議の進め方に迷っている方、後進の指導やチームのレベルアップについて考えている方などにお勧めしたいと思います。

【企画講師 近藤 直司】

<参考図書>

「アセスメント技術を高めるハンドブック第3版」(近藤 直司 著)明石書店 2022

「青年のひきこもり・その後ー包括的アセスメントと支援の方法論」(近藤 直司 著)岩崎学術出版社 2017

★事務局から★

要望に応え、今年度も集中講座でご企画いただきました。

今年度はさらに期日を2日間設け、より多くの方に受講いただけるようにいたしました。

5月と8月どちらかの期日をお選びください。

受講申込みの方には予め課題をお送りいたします。

予習していただいたことを通して、具体的なアセスメントへの理解を深め、持ち帰ってそれぞれの現場で使っていけるようにしていただきたいと思います。アセスメント力アップのための具体的なアドバイスを直接いただくチャンスです。ぜひご参加ください。

【プログラム】

各 日	時 間	テ ー マ
	10:00～10:40	<講義> 生物・心理・社会モデルとフォーマット作成の留意条項
	10:40～11:10	《個人ワーク》 フォーマットの修正
	11:10～12:00	《グループワーク》 アイスブレイク、5分レポート(前半3セッション)
	12:00～13:00	昼食 (各自おとりください)
	13:00～13:45	《グループワーク》 5分レポート(後半3セッション)と振り返り
	13:45～14:15	質疑応答・意見交換
	14:30～15:00	<講義> ケース検討会議の進め方
	15:00～16:00	《グループワーク》 ケース検討会議
	16:15～16:30	《グループワーク》 ケース検討会議の振り返り
	16:30～17:00	質疑・意見交換・アンケート

*カリキュラム・休憩時間等が変更になる場合があります。

ご参加いただく際の注意事項

- この講座はグループワークを含む講座となります。
- 発熱または風邪の症状がある方、体調不良の方の参加はご遠慮ください。
- 感染対策のため、会場では検温・手指消毒のご協力をお願いいたします。
- 昼食は各自おとりください。

講義室内でお食事をする方は、座席でお食事いただき会話はお控えください。

また、お食事以外はマスクの着用をお願いいたします。

- 新型コロナ感染症対策につきましては、感染症分類が変更になった場合の対策によって変更となる場合がございますので、ご了承ください。

なお、詳細につきましては、当財団ホームページ (<https://www.my-kokoro.jp/>) を参照願います。